

振興部の 知っとこ！神美

知っておいてほしい神美を紹介します。

【上鉢山、下鉢山の地名】



上鉢山の地名

その形状から鉢山と呼ぶ小丘陵が由来で、上下両山の上にプロ山と呼ぶ小山がある。

(豊岡の地名 山口久喜著より)

下鉢山の地名

「但馬国太田文」に「鉢山寺。六町八反二百四十歩」とあり、その寺跡が残る。本来は一带を鉢山と呼び、上下への分村は江戸期に入る。

(豊岡の地名 山口久喜著より)

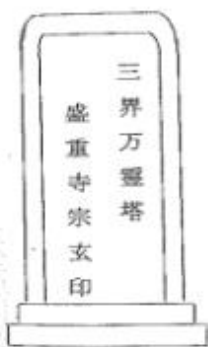
202107

狼市衛門

市衛門は、現在の関岡喜一の三代前の先祖で、庄屋をしていました。その頃、出石仙石様の方に毎日勤めに出ていました。或る日、安良の月カ下の墓地の近所にて、狼が市衛門の肩に飛びかかったとき、すぐさま前足を両手で握ってぐっと引張り、動く事もできず息もできない程しめたそうです。そのまま自宅へもって帰って、家内に「それみやげをやる」と庭に降したら狼は死んでいたのです、それより名前を狼市衛門といったといひます。

神美村誌より 「豊岡民話 耳ぶくろ(昭和 50 年発行)」より

盛重寺と盛重



盛重寺と盛重

この塔は、三開山城と連なる山の中腹にあるが元寺は森尾の谷にあった。

盛重は平氏落ちのびた人で平氏時代城に寺を建て供養されたが焼失後山より降り現在三家族が元気でおられる。

平朝臣盛重享保五年の石碑もあるし、当時のがま口も残っています。また掛図は正月三日間一般に解放されている。

盛重家は城主新田氏以前の旧家だが、新田氏からも保護を受け、四国の金比羅神社にも寄附されているし村の行事にも尽されました。

岡本氏も平井氏も沢山あるが、共に当時の勢力のあった部下だったと思われます。

香住、立石、森尾、下鉢山、駄坂、木内、大篠岡等の城下部落にこの性がが多いのは、勢力の強かったことの証明です。

駄坂 竹中喜美記 「豊岡民話 耳ぶくろ(昭和 50 年発行)」より